滋賀県赤十字血液センターに届いた「ありがとうの声」

「ありがたいと伝えて」
（ペンネーム：コナツ　さん）

一番初めは４９歳の時。
血液癌で抗がん剤治療の最中に血球が減少し過ぎて
緊急で輸血をしていただき一命を繋ぎました。

その次が心臓のカテーテル検査で
他の血管を傷つけて大量の出血があった時です。

ベッドの下にドボドボと落ちていく血を見ながら、
これまでかぁでもがんばったなぁ私。と思いつつ
麻酔で意識なくしていきました。

それからも何度も輸血をお願いすることが重なり
人の善意の温かみを体感しています。

今は副作用の為に違う治療をしています。
輸血しなくても大丈夫になったと説明され
家族と一緒に泣きました。
もう迷惑かけずにすむんだと。

私にとって献血とは、命そのものです。

ありがたい。ありがたいんです。

私はこの先献血する事が出来ません。
どうかたすかる命を救ってください。
おねがいします。